

1. 概要

I. 実習の概要

本実習（「名古屋大学夏期日本語教育実習」）は、名古屋市に JET（Japan Exchange and Teaching）プログラム新しく赴任する AET（Assistant English Teacher）を学習者とし、名古屋大学大学院生が教師を務める教育実習である。1989 年、名古屋市教育委員会の協力により実現の運びとなり、本年度で 16 回目を数えた。

また、今回は JET プログラムの AET の参加数が少数と見込まれていたため、民間の外国人指導助手派遣会社（株）アルティアセントラル）からも学習者を募った。

II. 実習生と担当したクラス

担当した実習生は 8 名で、2 名ずつに分かれて 4 クラスをそれぞれで担当した。なお、4 クラスは A B C D で分類され、A から順にレベルが上がっていく。以下に、それぞれのクラスを担当した実習生を挙げる。

A クラス

長谷川紀子 林真紀

B クラス

河口苗子 越賀智映子

C クラス

大島晋 太田真由美

D クラス

稲田朋晃 国沢里美

基本的に各クラスは独立して運営されていたため、シラバス、テキスト、カリキュラムなどはすべて各クラス担当者が考えたものをそれぞれ採用している。

III. 実習期間

実習期間は、AET の来日する期日及び、彼らが業務を開始する期日、さらには実習を行う名古屋大学の利用可能な日程という 3 つの外的要因、また各実習生の都合などを考慮し、2005 年 8 月 10 日～12 日、17 日～19 日の全 6 日間で行われた。13 日には常滑への課外活動も計画された。

実習期間中は午前 9 時 30 分から午後 12 時 20 分までの 170 分間で、A・B・D クラスは一日各 50 分の 3 時限で 10 分休憩、C クラスは一日各 75 分の 2 時限で 20 分休憩の時間割で授業を行った。また、最終日である 19 日は授業時間を午後 12 時までとして、授業後にフェアウェル・パーティーを行った。

IV. 学習者

学習者は計 25 名で、AETの学習者は 18 名、民間からの学習者は 7 名。男女では男性 17 名、女性 8 名で圧倒的に男性の数が女性を上回った。最後に学習者の国籍（かつこ内の数値は人数）を以下にまとめる。

アメリカ（7）

カナダ（6）

イギリス（5）

アイルランド（2）

オーストラリア（2）

ニュージーランド（2）

V. 総括

実習の準備に当たって、メーリングリストや週一回程度のミーティングを通じて、実習生同士で学習者や実習内容に関する情報交換を密に行った。前述したとおり、各クラスについては基本的に独立して運営されており、それぞれ担当する実習生の判断によって教授項目などのクラスに関する内容が決められた。

全体の反省としては、実習中はその場その場のことに気を取られてしまい、実習後は終了という達成感に陶酔してしまい、実習の記録が疎かになってしまった点が挙げられる。したがって、報告書を作成する際にはかなりの部分を記憶に頼っていることである。

各クラスでの反省は、それぞれの報告書に書かれているため、ここでは省略するが、反省することが多かったということは学ぶべきことが多かったということであり、それは実習が有意義なものであったと言い換えることが出来るであろう。

<大島>